

## セッカの繁殖

与那城 義 春

(沖縄県立博物館)

Notes on the Breeding of *Cisticola juncidis*

at the Base of Mountain of the Untama-mori in Boundary of  
Nishihara Town and Yonabaru Town, the Okinawa Prefecture

Yoshiharu YONASHIRO

(Okinawa Prefectural Museum)

### はじめに

セッカ *Cisticola juncidis* はヨーロッパ南部、アフリカ、インド、インドシナ半島、中国南部、フィリピン、日本、オーストラリア北部を含む広範囲に分布している。

日本のセッカは本州以南の平地、低山地の草原地域で繁殖している。冬期になると、北方地域の本種は温暖な地方に移動するようである。

日本国内では、セッカの生活史に関する研究が母袋（1976）によって報告されている。

沖縄県のセッカは大東諸島を除く多数の島々で殆ど留鳥として生息し、繁殖している。本種の生息場所は平地や丘陵地、山麓の草原および各地の甘蔗畑、水田地域等であり、繁殖場所は生息地の草原、水田地域で殆どチガヤ群落中に造巣している。また、時には甘蔗畑で5～6月頃にサトウキビが地上高1m前後の時、成長期の葉を利用して造巣し、繁殖することもある。

これまでに本県内では、セッカの繁殖に関する調査・研究は殆ど実施されてないようである。筆者はセッカの繁殖生態（1996）を調査したので、その繁殖状況を報告する。なお、今回の調査は筆者の実弟・与那城義則によって発見されたセッカの巣で実施したため、ここに付記して謝意を表する。

### 1. 調査地の概況

セッカの繁殖調査は沖縄本島中部地区の西原町と南部地区与那原町の境界に位置する運玉森（標高158.1m）の北部山麓で実施した（図1）。

本種の営巣場所は運玉森北部の裾野に在るチガヤ・ススキ草原であり、所々には墓地や常緑樹も散在する。その草原周辺は殆ど農耕地（甘蔗畑、野菜畑等）やゴルフ場によって占められている地域である。セッカの巣（産座底部）は地上高25cm程の位置にあり、その周

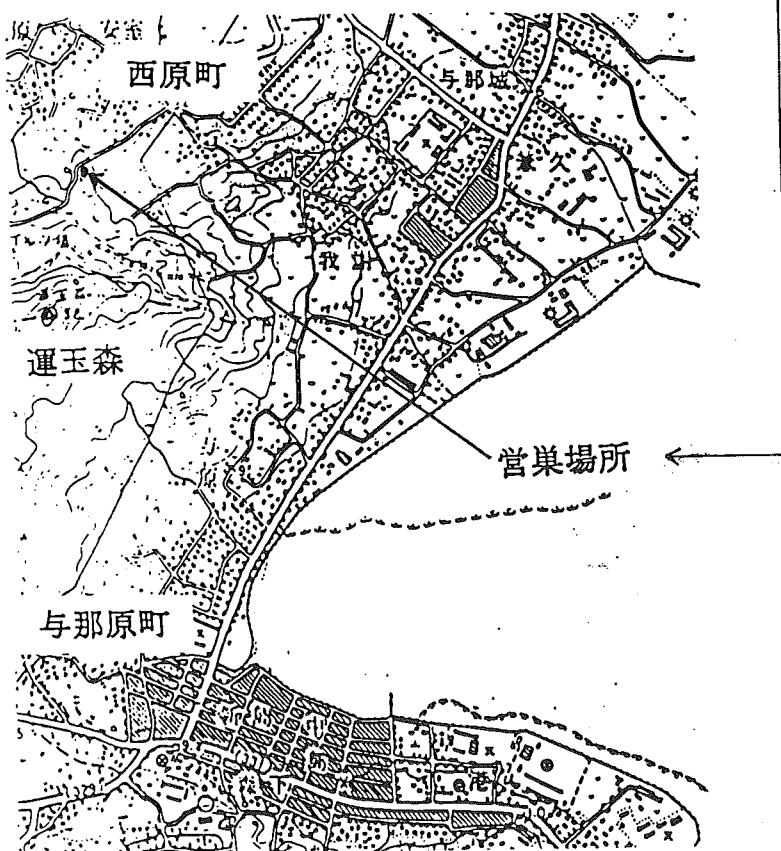
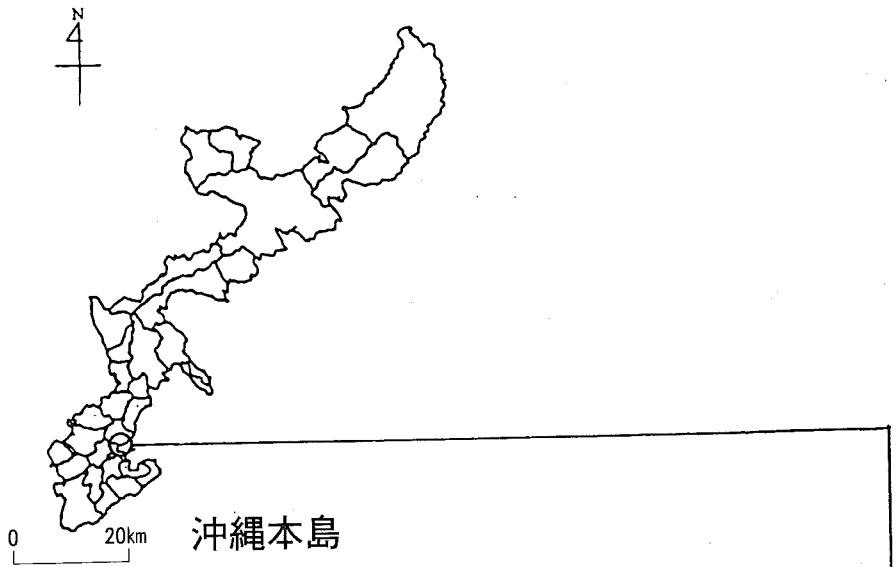


図1. 運玉森と調査場所の位地図

辺には殆どチガヤが密生しているが、ススキ群落も散在している地域であった。

## 2. 調査方法

セッカの繁殖調査は自然状態で巣を中心に造巣期の後半（内巣部）から産卵期、抱卵期、育雛・巣立ち前の実態を観察した。だが、特定の位置から楕円形である巣の内部観察は困難であったため、親鳥（雌）が巣から飛去した後に接近して巣口から直接観察によって産卵数、孵化の状況、雛の成育状態等を確認した。

## 3. 調査結果

### (1) 造巣期

1996年5月26日午後5時40分頃、営巣場所付近（写真①）の上空で飛翔中に上昇、下降を繰り返しながら、ヒツ ヒツ ヒツ、チャツ チャツ チャツ チャツ チャツ チャツ チャツ チャツ チャツ チャツ、と囀っている雄のセッカを確認した。そして、チガヤ群落の中にあるセッカの巣を観察すると、充分に成育しているチガヤの葉14~15枚をクモ類の糸で綴り合わせ、円筒形の外巣部は完成されていた（写真②）。その後、セッカの雄は営巣場所周辺で観察されず、囀り声も全く聞かれなくなった。



(写真①) セッカの営巣場所

5月29日午後6時頃、営巣場所から飛去するセッカを確認した後、接近して外巣の内部を観察すると、上方の巣口から側壁部分にはススキの穂が丁寧に詰められていた。また、底部の産座にはススキの穂とチガヤの穂が巧妙に使用されており、内巣部分も造巣を開始していた。

母袋（1976）によると、セッカの雄は外巣部を造巣し、番い形成後に雌が内巣部を造巣する。造巣中に雌は産卵も開始し、内巣部は2～3日間で完成させる、ということである。

## （2）産卵・抱卵期

6月1日午前10時、営巣場所付近にあるススキ群落の中からセッカの巣を観察した。約10分後、セッカは巣口から頭部を出すと同時に飛去した。早速、巣の内部を観察すると、白色地に褐色小斑の点在する卵2個が産座で確認された。しかし、俄雨でその日の観察は中断されてしまった。

6月8日午前9時、本日は先週の卵2個確認（6月1日）から1週間経過しているので恐らく抱卵に専念しているだろうと思考しつつ、ススキ群落の中でセッカの巣を観察していた。

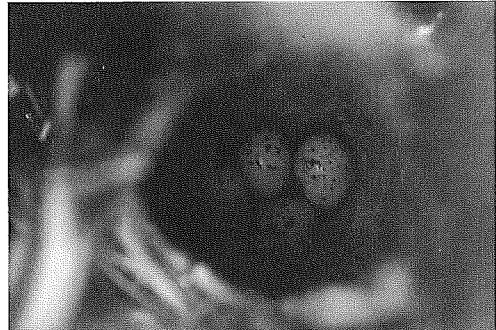
午前9時55分、セッカの雌が巣から農耕地に飛去した。その後に巣の内部を観察し、産座に4個の卵が確認された。

セッカの卵は橢円形であり、白色地に褐色の小斑が散在していた（写真③）。

6月11日午後5時35分、セッカの雌親が巣から飛去した後に巣の内部を観察した。産座の卵数は6月8日に確認された産卵数と同数の4個であったが、親鳥（雌）の抱卵によって卵殻表面の光沢が強くなっているように思われた。

母袋（1976）によると、セッカの雌は内巣部を造成しながら早朝に1日1個を産卵する、ということである。

本調査でセッカの産卵数は6月1日に2卵確認、その後に2卵の追加で6月8日に合計4卵が確認された。多分、産卵は5月31日の早朝に開始され、4個目の最終卵は6月3日の早朝に産出されたと推測される。また、雌親は初卵産出後から抱卵するようであるが、概ね午前9時30分以降から抱卵を中止して採餌のために長時間放置しているようである。



写真③ セッカの巣と卵

### (3) 孵化・育雛期

6月15日午前10時25分頃、セッカの雌親が巣から付近の農耕地に飛去した。その直後に巣の内部を観察すると、産座に孵化した雛3羽が確認されたほか、1個の未孵化卵もあった（写真④）。雛の身体は淡紅色を呈しているが、羽毛は雛3羽とも未だ生えてなかつた。円形の突起状である目の部分だけは青黒色であった。3羽の雛は産座で身体を寄り添うようにして就眠していた。約2分後、雛2羽が頭部をゆっくりと上方に動かしながら同時に嘴を開けたのである。2羽の雛は空腹のために食餌を要求しているように思われた。また、別の雛1羽は昏睡状態を継続していた。雛3羽のうち、2羽は孵化日から1日を経過しているようであり、他の1羽は孵化直後であろう。

6月23日午前11時50分頃、営巣場所から東側の農耕地に飛去したセッカの雌親を付近のススキ群落中から確認した。その直後、巣に接近して雛の成育状態を観察した。雛4羽のうち、1羽だけの羽毛は概ね全身に密生しているが、他の3羽の羽毛は頭頂部、背面の一部、肩の部分に生え始めていた。4羽の雛は孵化後から順調に成育しているようである。

6月27日午後6時20分頃、セッカの雌親が営巣場所から付近の甘蔗畑に飛去した後、接近して巣口から内部の雛の成育状態を観察した。4羽の雛は薄暗い産座で立ち上がった体勢になっており、頸部を上方に伸ばしながら嘴を大きく開けて食餌を要求していた。雌親の不在時に巣立ちの近づいている雛4羽は頻繁に立ち上がり、帰巣して給餌する親鳥を待機しているようであった。孵化後、これらの雛は約13日を経過しているので、間もなく巣立つ時期であり、そのためには巣の内部で食餌の要求行動も活発化するのであろう。

### (4) 巣立ち

6月29日午前8時頃、念のためにセッカの営巣場所を付近のススキ群落中から観察開始した。しかし、約1時間30分後も雌親と雛の動向は観察できなかつたので、接近して巣の内部を確認すると雛4羽とも既に巣立ちした後であった。直ちにセッカの雛が雌親と共に行動をする家族期を確認するため、営巣場所周辺に散在するススキ群落や付近の甘蔗畑を観察した。しかし、広大な農耕地やススキ群落でセッカの雌親と雛の家族は容易に確認されなかつた。多分、雌親は天敵から雛を守るためにチガヤ・ススキ草原や甘蔗畑の中に潜入し、行動しているのであろう。その時、雛は生存するために必要である多様な体験を習



写真④ 巣中の雛と未孵化卵

得するようである。

多分、4羽の雛は昨日（6月28日）の中間に巣立ちしたものと思われる。今回の雛の巣立ちは孵化日から14～15日目であった。

## 要 約

1. 草原の留鳥であるセッカ *Cisticola juncidis* の繁殖生態調査を1996年に沖縄本島の中部地区西原町と南部地区与那原町の境界に位置する運玉森（標高 158.1m）の北部にある裾野で実施した。楕円形であるセッカの巣の内部観察は雌親の飛去した後、接近して巣口から直接観察によって繁殖各期の状態を確認した。
2. 今回、セッカの造巣期で先に雄の分担する外巣部は概ね完成されており、外巣部の造成に要する日数は確認できなかった。外巣部は充分に成育しているチガヤの緑葉14～15枚をクモの糸で綴り合わせていた。  
繁殖期のセッカは一夫多妻（一雄多雌）の習性を有しているようであり、外巣部分を造成した雄は他の場所に移動して外巣部分を造成し、新しい番いを形成するといわれている。だが、本調査は自然状態で実施しているため、上述の実態は確認されなかった。雌の分担する内巣部はススキの穂を丁寧に敷き詰め、底部の産座にはススキの穂とチガヤの穂が巧妙に使用されていた。雌の造成する内巣部は3日で完成させていた。
3. 今回、セッカの産卵数は4個であった。これまでに沖縄本島内では、1巣の産卵数は普通3～4個であるが、時には5～6個を産卵することもある。
4. 本調査では、セッカの抱卵日数は約14日であった。抱卵期の雌親は昼間の抱卵を中止して飛去すると、容易に帰巣しなかった。多分、空腹感や疲労感によって雌親は今後の繁殖活動に備えて採餌に長時間を要しているのであろう。
5. 雛の巣立ちは孵化日から14～15日目であった。巣立ち後、行動と共にする家族期のセッカの雌親と雛は営巣場所周辺のススキ群落や農耕地でも確認されなかった。

## 文 献

日本鳥学会編、1974. 日本鳥類目録. P.85. 学習研究社. 東京.

羽田健三監修、1976. 続・野鳥の生活 P.66～72. セッカ（母袋卓也 執筆）

筑地書館 東京

清棲 幸保、1978. 日本鳥類大図鑑 P.201～203. 講談社. 東京.

高野 伸二、1981. 日本産鳥類図鑑 P.357. 東海大出版会. 東京